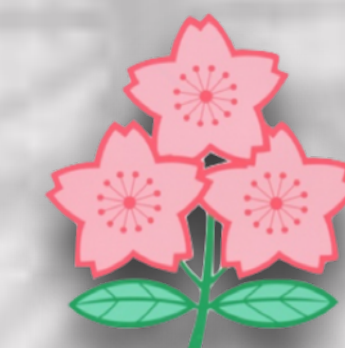


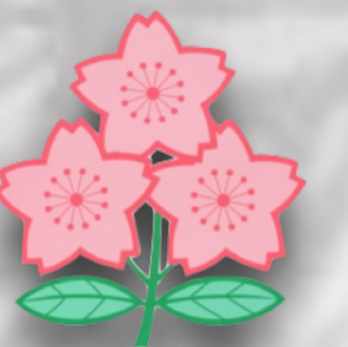
タックルの高さに関する試験的 ガイドラインの導入について

(公財) 日本ラグビーフットボール協会
ハイパフォーマンス部門 審判グループ



ターゲット

プレイヤーの安全を守り、「誰でも、いつでも、どこでも楽しめるラグビー社会の実現」を目的とする。



経過とエビデンス

2023年3月、ワールドラグビーより、プレーヤーウェルフェア向上の取り組みの一環として、タックルの高さに関する試験的取り組みへの参加を推奨する発表がありました。また、5月の理事会において、コミュニティレベルでの試験的適用についての推奨が承認されました。

これを受けて、JRFUでも各カテゴリーにおけるステークホルダーの方々と議論を進めて参りました。そして、2023年9月1日よりリーグワンを除く全てのカテゴリーにおいて、「タックルの高さに関する試験的ガイドライン」を導入する事となりました。



74%

タックルエリアに起因する
脳振盪の割合
タックルの高さを低くすることで、
両方のプレイヤーを保護する

約70%

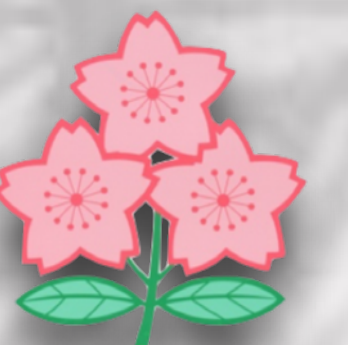
タックルエリアでの脳振盪の内、
タックラーに関係する割合

4.2倍

タックラーの頭が胸骨より上に
ある場合、脳振盪のリスクは高まる

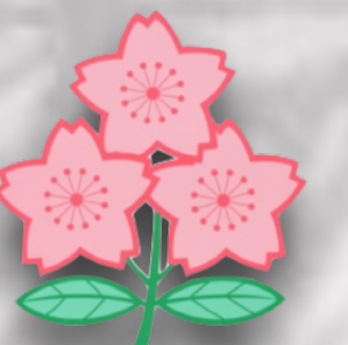
研究によると、タックルの高さを
低くすることで、脳振盪が大幅に
軽減されることがわかっている

フランスでの試験的実施の結果、
頭と頭が衝突するケースが**64%**
減少し、**23%**脳振盪が減少した



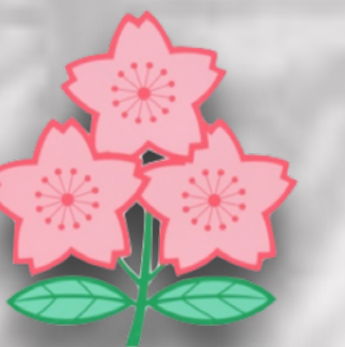
予想される効果と影響

- ・ 頭と頭が衝突するケースの減少
- ・ 脳振盪の減少

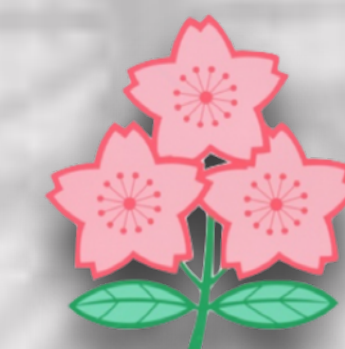


対象となるカテゴリー

- ・リーグワンを除く、全てのカテゴリーへの適用
(ミニ、ジュニア、高校、大学、社会人、クラブ)



ガイドライン



COMMUNITY GAME: LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL

THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2
TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S
HEAD IS ABOVE THE BALL CARRIER'S
STERNUM IN THE TACKLE*

BELOW THE STERNUM

- TACKLE THE BELLY
- BELOW THE BALL
- TARGET THE TORSO

*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS,
ONGOING WORLD RUGBY
RESEARCH STUDIES,
AS IN TUCKER ET AL 2017]



胸骨の位置(赤塗り部分)

COMMUNITY GAME: LEGAL TACKLE HEIGHT PROPOSAL



THE RISK OF CONCUSSION IS 4.2
TIMES HIGHER WHEN THE TACKLER'S
HEAD IS ABOVE THE BALL
CARRIER'S STERNUM IN THE TACKLE*

HIGHEST RISK ZONE

HEAD-ON-HEAD AND HEAD-
ON-SHOULDER

LOWER RISK ZONE

TACKLER HEAD TO BALL CARRIER
TORSO\UPPER BODY

HEAD-TO-HIP AND HEAD-TO-UPPER
LEG ARE LOW RISK

MEDIUM RISK ZONE

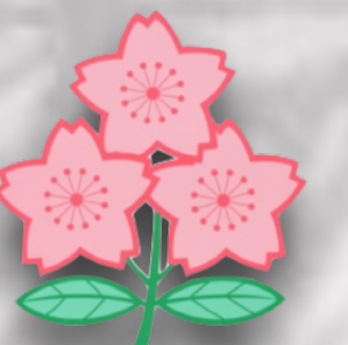
HEAD-ON-KNEE HIGHER RISK WITH MEDIUM ZONE

*[SOURCE: DATA FROM 878 HIAS, ONGOING
WORLD RUGBY RESEARCH STUDIES,
AS IN TUCKER ET AL 2017]



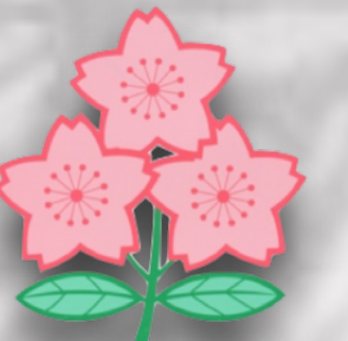
ガイドライン

- 胸骨の位置へのタックルはハイタックルでPKとする。
- 最初のコンタクトの位置は胸骨より下であったが、ずり上がって最終的にコンタクトの位置が胸骨になった場合、PKとなる可能性がある。
- 複数でタックルする際は、1stタックラー同様に胸骨より下へタックルしなければならない。

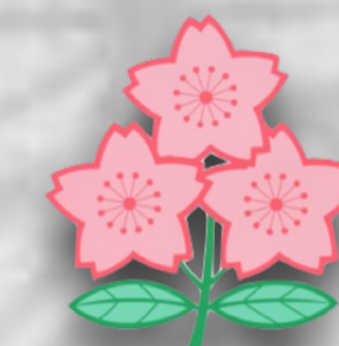


ガイドライン

- ボールキャリアーが胸骨付近で保持しているボールに対してコンテスト出来るが、タックルすることは出来ない。
- ボールキャリアーは自他に危険が及ばないよう、正しく安全なスキルが求められる。タックラーがタックル出来ない位置に頭を下げるようなボールキャリアーの行為によって胸骨へタックルが起きた場合はプレーオンとなる可能性がある。
(高校生の場合は、レフリングガイドラインに則り、このボールキャリアーの行為にはローヘッドとしてPKを課す)



判定プロセス



TACKLE HEIGHT PROCESS

1

HIGH TACKLE?

胸骨より上にコンタクトしているか?

No
→

Play on

↓ Yes

2

FOUL PLAY?

ファウルプレーである

No
→

Play on

・ボールキャリアーによるタックラーがタックルできない位置に頭を下げる行為 (高校生はローヘッドとしてPKを科す)

↓ Yes

3

DEGREE OF DANGER?

危険度は?

↓ LOW 低い

PK

↓

YC

↓ HIGH 高い

RC

4

ANY MITIGATION FACTORS?

ボールキャリアーによる方向の変化
ボールキャリアーによる高さの変化
タックラーの視界が遮られている
タックラーが明らかに低くタックルを試みている

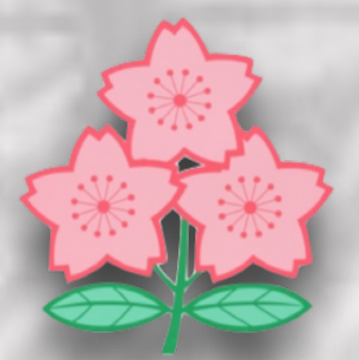
↓ Yes

PK

↓ Yes

YC

故意または無謀すぎるプレーには軽減要因は適用されない



お願い

今回の試験的ガイドラインの実施はプレイヤーの安全性確保が大前提です。

プレイヤー、コーチ、レフリーが一体となって取り組んでいきましょう。

JRFUでは定期的にレビューしながら、より良いゲームを共に創って参りたいと思います。

本件に関するご質問はこちらまで、よろしくお願ひします。

<https://forms.gle/9WG2wzw8oheSfYr1A>

